

組織目標評価報告書（令和7年度）

部局名：

大学院環境生命自然科学研究科

学域名：

環境生命自然科学学域

部局長名：

森 也寸志

目 標		目標に対する達成状況(成果)及び新たに生じた課題等
①教育領域	関連する 中期計画の番号	
		教育領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
1. 定員充足率について博士前期・後期ともに100%を目指す。 2. 学生海外派遣・受け入れ数を前年度よりも増加させる。 3. 海外の大学とダブルディグリープログラムなどを構築し、教育システムの高度化を図る。 4. キャリア共創開発室を活用して、全ての修了生にプロジェクトマネジメント実習・プラクティカムを実施させる。	(9-1) (7-1) (7-1) (4-1) (5-1)	1. 2023-2024-2025の順に 博士前期課程は110%, 119%, 120%で100%以上の入学者を得た。 博士後期課程は113%, 115%, 84%であり、 8割は越えたが2025年に初めて100%未満となった。従って全体で評価3と考えた。 2. 2024-2025の順に 学生の海外派遣は9-12人と増加した。また、受け入れも46-53人と昨年より増えた。 従って全体で評価5と考えた。 3. 実際に、 <u>ケベック先端科学技術大学院大学(INRS)とは具体的なプログラムの検討、文書の検討作成を始めた。また国立台湾師範大学を訪問し、こちらの条件と先方の条件のマッチングを図った。他にも、ベトナムのフエ大学、ノンラム大学ともダブルディグリーを見据えた教育プログラムの構築を考えている。</u> 従って全体で評価4と考えた。 4. 各学年博士前期約500人、博士後期約100人在席する中、 <u>全ての修了生にプロジェクトマネジメント実習・プラクティカムを実施させることができた</u> ため、評価5と考えた。 (自然系教務2026.3調べ)
②研究領域	関連する 中期計画の番号	
		研究領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
1. 科研費申請で継続＆新規採択率75%, 応募教員率100%を目指す。 2. Q1ジャーナル＆若手研究者論文数を前年より増加させる。 3. 国際共著論文数を前年より増加させる。 4. 共同・受託研究、受託事業受入額は令和5年度比1.5倍を目指す。	(8-1) (8-1) (9-2) (8-1) (8-2)	1.継続＆新規採択率は59.8%とやや下がった数値、また応募教員率は95.5%と例年通りだった。 しかしながら、 <u>研究科としては基盤Sで2人、学術変革研究(A)で1人、学術変革研究(B)で1人が計画班で採択があり、大型予算の採択が見られた。</u> そのため、評価4と考える。 2.Q1雑誌は56報プラスの24.2%増、若手論文数は9報プラスの12.5%増と目標を達成したため評価を5と考える。 3.国際共著は17報減の-7.2%でわずかではあるがマイナスがあったため評価3とした。 4. <u>特筆すべきは、共同・受託研究、受託事業受入額で令和5年度比156%(651百万円→1013百万円)となった。</u> <u>地方都市にあってきわめて難しい目標を達成したことになり評価5とした。</u> (研究協力課2026.3調べ)
<研究科の系としての目標・取組>		
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	
		社会貢献(診療を含む)領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
1. 半導体人材育成プログラムの具体化とサブプログラムとしての提供準備を行う。 2. 公開講座を通じて、社会人に専門的知識を付与する活動を行う。	(6-1) (6-1)	1. 広島大学を主幹校とする半導体人材育成プログラムが政府予算に採択され、 <u>岡山大学はプロジェクト分担校として実施開始した。</u> その活動の一環として、サブプログラムを構築し、 <u>その修了生を同プログラムの修了生とする取り組みを行い、具体的に2026年度からそれがスタートすることになった。</u> そのため評価5とした。 2. <u>情報通信・セキュリティ関連の公開講座などを行い、受講生に専門的知識を付与することができた。</u> そのため評価5とした。
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	
		管理運営領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
1. 研究環境を整えることで、女性教員採用割合を向上させる。 2. 若手教員・外国人教員割合について3年移動平均での増加を目指す。 3. 新研究科広報活動(特に海外向け)を推進する。 4. 教職員・学生の心理的安全性が保たれた職場・学習環境の養生のために教材利用や研修会を実施する。	(11-2) (9-2) (その他) (その他)	1. <u>女性教員数は、この3年間で30/301、33/303、36/316で9.96%、10.89%、11.39%と徐々に増えており、目標は達成されたと判断し評価5と考えた。</u> 2. <u>若手教員割合は62/301、74/303、80/316と増加し、それぞれ20.60%、24.42%、25.32%と増加している。</u> <u>また、外国人教員割合は、9/301、10/303、13/316と増加し、それぞれ2.990%、3.300%、4.104%と増加した。</u> 従って評価5と考えた。 (以上、自然系人事2026.3調べ) 3. <u>JASSOが主催する海外向けの大学院紹介をオンラインで行い、広く大学院研究科を知らせることができた</u> ため評価5と考えた。 (JASSO インド・南西アジア向け日本留学オンラインセミナー) 4. <u>教員研修会として、研究科で独自にハラスメント研修会を行い、心理的安全性が保たれた職場・学習環境の養生に努めた</u> ため評価5と考えた。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。
注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。